

## 高校学習指導要領改訂

茗溪塾塾長 長谷誠基

日に日に気温も上昇し、鬱陶しい季節になってきました。学校では運動会や修学旅行など感染対策をしながらほとんどの行事ができるようになってきました。そんな中、学習指導要領の改訂が2020年から進み、今年高校が改訂されました。2020年の小学校の改訂では小5・6で行われていた外国語活動が小3・4に移り、小5・6では英語(外国語)が教科化されました。単語数や書く頻度も増え、通知表に評定も付くようになりました。2021年には中学が改訂され、英語では単語数が400～600語ほど増加し、文法事項も高校で学習していた仮定法などが中学で学習するようになりました。入試でもさっそく改訂された単元が出題された県もありました。

そして2022年今年の高校1年生が改訂され、教科の再編や新しい教科も始まりました。数学は数Cが復活しベクトルが移動され、理科は物理・化学・生物・地学の基礎が1つにまとまり理科基礎になります。社会は日本史Aと世界史Aが歴史総合になり、日本史Bが日本史探求、世界史Bが世界史探求に、地理Bが地理総合、現代社会が公共という科目になりました。また、英語コミュニケーションは論理・表現に変わり、新たに情報Iが加わりました。これにより2025年に実施される共通テストは7教科21科目から選択することになります。現高2の生徒は現役で進学しない場合、新課程での共通テストに臨まざるを得ないことになります。もちろん救済の措置はとられますが、できるだけ現役で進学しようという意識が働くものと思われまます。

また、2025年には他にも変化がありそうで、今でも早稲田大学などでは「一般選抜→従来の入試・英語4技能利用入試・共通テスト利用入試、自己推薦、AO方式等による入試、FACT 選抜、新思考入試、英語による学位取得プログラムへの入学試験等」のような様々な入試形態がありますが、今後発表される国立大学などでも入試形態が多様化することが考えられます。大勢として今後は推薦等の入試の募集定員が増える傾向があり(現在でも入学者の約50%が推薦等での入学)内申の重要性も増しそうです。英語の民間試験の活用も多くなってくるので、現在高1以下の学年の皆さんは、日々の学習を大事にしながら、英語の4技能の力を伸ばすことを意識して進めましょう。来年から都立高校入試でもスピーキングテストが始まります。これ以外にも変更点が出てくるでしょうが、塾生の皆さんは今行っているオンライン英会話などを積極的に活用しましょう。

普段からの学習がこれまで以上に重要になってきます。早期に学習を習慣化し変革の時代を乗り越えていきましょう。